

平成16年度 内閣総理大臣賞

農事組合法人いくみ

(静岡県島田市伊久身)



写真2 「あぐりわくわく探検隊」による釜炒り茶づくり



写真3 「やまゆり」での黒米パンづくり



写真4 「あぐりわくわく探検隊」でのそば打ち体験

特 色

1. むらづくりの背景・動機

伊久身地区は、島田市の最北部に位置し、標高200～600mの急峻な山が連なる山間地域で、地区の中心部を伊久美川が流れている。地区面積は38.13km²で、点在する12の集落に、326戸・1,181人が居住している。地区から他の市町村へ抜ける連絡道路もなく、観光地への通過点でもない閉塞的地勢の山間地域であるため、流入人口、通過人口が非常に少ない地域であり、市内の他地区と比べると、過疎化、高齢化が進行している。このため、地区の伝統行事であった「とうろん」(お盆の送り火行事)が廃れるなど、このままでは個々の集落や地区そのものの存続、維持ができなくなるとの危機感が地区住民に芽生えた。

このような中、島田市が伊久身地区を「コミュニティ推進地区」に指定したことが契機となり、昭和57年、地域の活性化を目的に、伊久身地区12集落の町内会、各種団体の代表者が参集し、「伊久身地区コミュニティ委員会」と各集落から1名ずつ選出された代表で構成する「ふるさと部会」が設置され、地域住民自らがむらづくりについて話し合いを進めていった。さらに平成6年には「ゆりの根」農産加工グループを立ち上げ、平成7～8年には市の「中山間地域拠点集落整備構想策定事業」のもとで、伊久身地区全域から100名以上が集まってワークショップが開催され、伊久身地区全体のむらづくり構想が議論された。ワークショップの中核的メンバーは、平成9年には「伊久身活性化推進協議会」を立ち上げ、若手住民がリーダーとなって年配者がそれを支援する形で都市農村交流の拠点施設、地元食材加工施設づくりについて住民の合意形成が進められ、そうした施設を支える組織の必要性も明らかになった。こうした経緯をもとに、「ゆりの根グループ」や「ふるさと部会」、「伊久身活性化推進協議会」等が合同で将来に向けての夢を語る「夢会議」を契機に、平成10年「農事組合法人いくみ」が誕生した。

2. むらづくりの内容

「農事組合法人いくみ」は、本地区の農業者の約1/3、74名の農業者が組合員となっており、役員は理事7名（うち代表理事1名）、監事2名で構成され、体験加工部、交流企画部、地域振興部、物産販売部の4部門を置き、幅広い活動を展開している。

体験加工部は、平成11年に中山間地域総合整備事業により建設された農産物加工体験施設「やまゆり」の運営、黒米パン、黒米いなり、味噌、生そば、ほう葉もち等の農産加工・販売、総菜や仕出し弁当の製造、農業体験の受け入れを行っている。交流企画部は、「伊久身わくわく倶楽部」との連携による小学校高学年を対象とした「あぐりわくわく探検隊」での農業体験や、伝統行事「とうろん」体験企画の実施等、交流や食育活動を実施している。地域振興部は、「伊久身地区コミュニティ委員会」との連携による「伊久身まつり」等の各種イベントの企画・運営や、花による地域の環境美化運動を行っている。

このような役割分担のもと、各部の取り組みが有機的に連携し、地域住民や都市住民との連携を図りながら、むらづくりに向けた積極的な取り組みを進めている。

拠点施設「やまゆり」では地場農産物を付加価値化する加工販売やそば打ち等の体験教室に取り組むことで、行き止まりの山間地である当地域に都市部から多くの人々が訪れるようになり、その結果、「やまゆり」では女性30名という貴重な雇用を創出するなど、地域活性化に大きく貢献している。また、都市部の小学生を対象とした体験交流活動「あぐりわくわく探検隊」を行っており、都市と農村の交流を実現している。

農業生産面

当地区の基幹産業は第1次産業であり、平坦地が僅少なため、水田は少なく、お茶を中心に、椎茸栽培、さらに近年始まったわさび栽培などの農業と林業によって支えられてきた。また、農林業が伸び悩みの状況にあり、新たな産業の掘り起こしを図るため、溪流を利用したヤマメの養殖や、もろこし村、観光栗園など、地区の特性を活かした住民主導による様々な村おこし活動が展開されている。

「農事組合法人いくみ」では、「地元の食材を使って特産品作りに取り組む」ことを目的として、地元の豆腐店の豆腐を利用したクッキーや、おやき、和菓子、黒米パン、茶パン等、手作りのこだわり商品を開発しており、その商品が「やまゆり」のほか市内のスーパー、病院で販売される等、安定した需要を創出している。こうした加工販売活動は、地区の20代～40代の農家女性によって取り組まれており、地区内に貴重な30名の雇用を創出している。さらに本法人により、高齢者による少量生産の農産物や雑穀（きび、ひえ、ごま、そば）、ほう葉等の特産物を直売用や加工品の原材料として買い上げるシステムが導入され、これにより農産物の生産量が増え農地利用の向上に貢献しているほか、高齢者の貴重な収入源、生き甲斐となっている。

当法人を中心とした体験交流などのグリーンツーリズム活動等を通じて、地域内への都市住民の入り込みが促進され、淡水魚（ヤマメ）養殖、茶農家における域外季節雇用などの生産活動に寄与している。また、遊休農地を利用した「あぐりわくわく探検隊」の体験活動等により栽培された黒米が、パン、日本酒等に商品化されるなど体験活動が生産活動を活性化している。

生活・環境面

当地区では、30数名の小学校高学年の児童を受け入れて、黒米の田植え、収穫、釜炒り茶づくり、そば打ち、パン作り等の農作業・食育体験や、伝統行事（とうろん）の体験、山歩き、リース作り体験等を9年間継続して実施している。最初の参加者は現在20歳を超え、その中には活動を手伝う人や伊久身に住みたいと希望する人も出てきているなど、伊

久身ファンが着実に増えている。また、探検隊に参加したことがきっかけで、小規模特認校制度を利用して市内から伊久美小学校への学区外通学を選択する児童も出てきている。伊久身小学校で実施する移動教室やサタデーオープンスクールなどの農業体験学習により、域外からの転学児童が2名現れるなどの成果をあげている。また、サタデーオープンスクールはこれまで2,000人程の児童を受け入れており、市内の子供たちに伊久身地区のファンを増やすことにつながっている。また、伊久身小学校では、自分のふるさとに誇りと自信を持って、将来地区を支えていくような子供たちを育てるために「夢講座」という地区の伝統を伝える取り組みを行っており、地区の子供たちにとって、誇りと地域に対する愛着で一体感が見られるようになったことなど、将来の地区の担い手育成に貢献している。

また、伊久身ファンが増加する中、平成15年から島田市が市中心部と地区を結ぶ1時間に1本のコミュニティバス路線を開通させたことで、市内から高齢者等が「やまゆり」に昼食や体験に訪れるようになり、交流人口がさらに増えてきている。

「やまゆり」で加工されたパン、ほう葉もち等の農産加工品や、野菜類、工芸品等を積極的に地域外で販売し、伊久身地区のファンづくりを行っている。

販売先では、顧客の問いかけに対して、農作物の栽培方法や特徴、商品の製造過程を詳細に説明し、併せて「やまゆり」のPRや地区の様子を伝えること等により、消費者との間に信頼関係が生まれ、固定客の中には、そば打ちや味噌づくりなどを体験したり、地区の豊かな自然にふれてみようと、休日に「やまゆり」を訪れる人も増えている。